

クラゲ祭り(須磨)で講師に

久保田 京大助教授

「紀南でも開きたい」

白浜町臨海の京都大学フィールド科学教育センター瀬戸臨海実験所の久保田信・助教授がこのほど、兵庫県神戸市立須磨海浜水族館と周辺で開かれた「須磨クラゲ祭り」でボランティア講師を務めた。今秋、白浜町で一般向けのクラゲ実習を計画しており、運営方法やボランティアのかかわりなどを参考にするといい。



須磨海浜水族館近くのヨットハーバーでクラゲ採集会の参加者に説明する久保田信助教授(神戸市で)

2日間も、クラゲだけでイベントするのは珍しい。最近の癒やしブームでクラゲ人気が高まっており、多くの参加者でにぎわった。クラゲの研究や飼育に携わる関係者とクラゲ愛好家を結ぶサークル「jfish(クラゲ・メーリングリスト)」と水族園でのイベントや須磨周辺地域の生物調

査などをするボランティア組織「SAPV」が協力して実現した。久保田助教授もjfishの一員。2日間にわたる行事の初日は、全国のクラゲ研究者らと一緒に講演。「クラゲの生活史の多様性」を演題に話し、不老不死のベニクラゲなどを例に挙げ、分かりやすく説明した。また、2日目は近くのヨットハーバーで採集会。白浜町などでもおなじみのアカクラゲやミズクラゲ、アメフラシ、ヒトデなどを見つけることができた。このほか、クラゲの着ぐるみショーやクイズ、合唱などがあつた。

久保田助教授は、2001年9月、誰でも参加できる一般向け実習を開き、カイヤドリヒドラクラゲを主な材料にして生活史を見せた。今回イベントに参加して「ボランティアが活躍して成功させた大イベント。紀南地方でも同様のイベントをつくってみたい」と話している。